放送　地域放送番組編集計画（2011年度）

原文どおり掲載するが，年表示は西暦に統一した。

北　海　道

≪基本方針≫

長引く景気の低迷や公共事業の削減，農産物輸入自由化への動き，少子高齢化など，北海道を取り巻く状況は厳しさを増しています。こうした時代に，NHKは，北海道が直面する課題に正面から向き合い，未来への展望を示し，道民の“元気”につながるようなニュースや，多彩な番組を届けることで，視聴者の期待や，関心に応えていきます。

11年にはテレビのアナログ放送が終了し，テレビは“フルデジタル時代”を迎えます。デジタル放送への移行に全力で取り組むとともに，これから先の時代を見据えた放送事業を展開していきます。

北海道のNHKは“北海道はひとつ”の方針のもと，道内７つの放送局が緊密に連携し，豊かで質の高い地域サービスを行ってきました。11年度もこの取り組みを深化しつつ，時代の変化に対応し，より視聴者の期待に応える放送サービスを追求していきます。また，メディア環境が激変し，NHKに接触する人が低下する傾向にある中で，幅広い世代にNHKのコンテンツを見ていただく取り組みも引き続き強化していきます。

番組編成については10年度の大幅改定を進化させ，一部見直しを行います。平日の情報番組，ニュース番組については，番組の検証と内容の充実を進め，さらなる定着を図ります。金曜夜間の地域放送番組については，時間帯ごとのターゲットをより明確にしたうえで，編成時間の見直しや新番組の開発などを行うとともに，インターネットや携帯端末を有効に活用して視聴者層のさらなる拡大を図ります。

また，道内７つの放送局が共同して取り組む放送キャンペーン，イベントを年間を通して展開し，道内各地からの情報発信の強化に努めます。

11年度の地域放送番組の編集に当たっては，こうした考えを中心に，北海道の視聴者の期待に応えていきます。

≪重点事項≫

１．ニュース・報道番組の充実

○地域放送の重要な柱であるニュース番組を，平日午後６時台を中心に，さらに充実させていきます。災害や緊急報道に即応できる体制を整備するのはもちろんのこと，道内７局のネットワークを生かし，地域の関心に応えられるきめ細かい情報を発信します。

○北方領土やTPP（環太平洋パートナーシップ協定）への動き，中国資本の進出，人口減少など，北海道が抱えるさまざまな問題を正面から捉えて，課題を浮き彫りにし，解決策を提示していきます。ニュースや金曜夜７時台の報道番組などで重点的に取り上げるほか，時宜を捉えた特集番組や討論番組にも積極的に取り組み，地域の問題を視聴者とともに考えていきます。

○４月に予定されている統一地方選挙や，各地で行われる首長選挙などの報道に当たっては，開票速報など関連放送の実施に万全を期します。

２．幅広い視聴者層に向けた番組の充実

○金曜夜間の地域放送番組については，夜７時台，８時台，10時台の３つの時間帯で，それぞれの視聴者層やターゲットを明確にしたうえで編成を再構築し，新番組の開発を行うとともに，継続番組については内容のブラッシュアップを図り，視聴者層の拡大を戦略的に進めます。

○夜10時台には，音楽番組や若者向けのアウトドア番組，またインターネットサービスと連動する新たな地域情報番組などを編成し，若者を中心とする普段あまりNHKに接触しない視聴者層に向けてアピールしていきます。

○道内で活躍するアーティスト・クリエイターや，高校生の作った映像作品に対して発表の場を提供する取り組みや，視聴者のアイデア・意見を積極的に取り入れた番組などを，年間を通じて展開します。市民とともに放送文化を創造し，人と人がつながる“公共の広場”としての放送局を目指します。

３．ニュース・番組を通じた，地域を元気にする取り組み

○北海道のNHKは“北海道げんき宣言”を掲げ，北海道で活躍する人々や地域を活性化する取り組みを紹介する番組や，北海道の魅力を再発見する番組などを積極的に発信し，道民を元気にするような放送や，若者を応援するキャンペーンなどを展開します。実施にあたっては組織横断的な体制を構築するとともに，道内７局が一体となり，道内各地からの情報発信の強化に努めます。

４．“フルデジタル時代”における新たな放送サービスの提供

○７月に迫ったテレビ放送のフルデジタル化に際しては，移行がスムーズに行われるように全力を挙げて取り組みます。またデジタル放送の特性を生かし，双方向サービスやマルチ編成，データ放送など，地上デジタル放送ならではのサービスを積極的に実施し，視聴者の利便性を高め，暮らしの安心・安全につながる情報を充実します。

○パソコンや携帯端末向けのサービスも強化します。公開ホームページは，より情報にアクセスしやすくリニューアルするとともに，コンテンツの充実を図ります。携帯端末のホームページも内容の充実につとめ，さまざまなツールでNHKに接触することが出来る機会を増やします。

５．地域スポーツ情報の発信

○斎藤佑樹投手の入団やユニフォームの一新など話題の多いプロ野球「北海道日本ハムファイターズ」や，サッカーJ1昇格を目指す「コンサドーレ札幌」，またアイスホッケーやスキージャンプなど，視聴者の関心が高いスポーツについて，ニュースや中継で積極的に伝えます。

東　北

≪基本方針≫

東北地方の各放送局は，地域の特性とニーズに合わせた番組のいっそうの充実に努め，暮らしに役立つ“情報”と暮らしを豊かにする“感動”を視聴者のみなさまに届けます。

11年は，７月にテレビ放送のフルデジタル化が行われる節目の年です。フルデジタル時代にふさわしい魅力的な番組の開発とテレビの可能性に挑戦します。

東北地方は，農林水産業の衰退や長引く経済不況，高齢化や過疎化など，多くの課題を抱えています。東北の経済・産業や人々の生活はどうなってゆくのか，地域の“今”を深く見つめ，視聴者とともに将来像を考える番組制作に取り組みます。

災害報道や緊急報道に万全を尽くし，防災や減災意識の向上に役立つ放送を継続的に行うことで，公共放送としての使命を果たします。

地域を元気にするスポーツ放送を積極的に行います。星野新監督を迎え，躍進が期待されるプロ野球「東北楽天ゴールデンイーグルス」をはじめ，関心が高いスポーツの情報を幅広く伝え，地域の応援団として東北を熱く盛り上げます。

インターネットや携帯端末向けサービスなど，さまざまなメディアを使った情報発信やイベントの開催を通して視聴者とのつながりを深めます。

東北地方の各放送局は，こうした取り組みを通じて，視聴者の期待や信頼に応え，“放送局のちから”をいっそう発揮していきます。

≪重点事項≫

１．課題に向き合い，地域を元気にする金曜夜間の充実

総合テレビの金曜夜間を“地域放送の重点ゾーン”と位置づけ，多彩な番組を編成します。

地域経済，防災，医療・福祉，食，環境など，東北の課題をタイムリーに，多角的に取り上げます。

東北各地の豊かな自然や文化，そこに暮らす人々の姿を描く番組など，家族でくつろぐ時間にふさわしい見応えのある番組を制作します。

幅広い世代に親しんでもらえる民謡番組を新設し，東北民謡の魅力を伝えます。新しい発想による番組開発にも挑戦します。

11年度は，貿易の自由化を目指すTPP（環太平洋パートナーシップ協定）への日本の参加が大きな焦点となります。とりわけ重大な影響を受ける農業を中心に，転換期を迎える地域の経済・産業を見つめ，視聴者とともに東北の将来像を考える特集番組の制作に取り組みます。

２．関心に応える正確で迅速な報道

近い将来，高い確率で発生が予測されている宮城県沖地震などの大規模災害に備えて，緊急報道体制の充実・整備をさらに進めます。年間を通じて防災・減災意識の向上に努め，地域の安全･安心を守ります。災害時には，放送に加えて，インターネットや携帯端末などのメディアも活用し，迅速で的確な災害報道を行います。

４月には，４年に１度の統一地方選挙が予定されています。政権交代から１年半がたち，有権者の意識がどう変化しているのか，多角的にわかりやすく伝え，正確で迅速な選挙報道に努めます。

３．フルデジタル化に向けて

７月に予定されている，テレビ放送のフルデジタル化に向け，東北地方の各放送局は，フルデジタル時代にふさわしい魅力的な番組を制作するとともに，放送やイベントを通じてアナログ放送終了の告知やデジタル放送受信のための情報周知に努めます。また，データ放送やインターネット，携帯端末など，それぞれのメディアの特性を生かした情報を発信し，幅広い世代に親しまれる放送局を目指します。

４．地域との結びつきを強める番組・イベント

午前11時台の地域情報番組『情報パレット』は，番組のさらなる充実を図り，東北地方の視聴者の役に立ち，暮らしを豊かにする生活情報をたっぷり伝えます。

FM放送では音楽を愛する東北の聴取者のニーズに応えるため，土曜夕方に新たな音楽番組を制作します。東北にゆかりのあるアーティストや，人気のジャズを特集するなど，親しみのわく“東北ならでは”の番組を目指します。

公開番組やイベントを通して地域の活性化や文化振興に寄与し，地域貢献に取り組んでいきます。「冬・北国からのコンサート」や「東北民謡コンクール」など，番組と連動した東北地方独自の公開イベントにも力を入れ，視聴者とのつながりを深めます。

５．スポーツの放送で地域に元気を発信

星野新監督の就任で注目が集まるプロ野球「東北楽天ゴールデンイーグルス」，サッカーJ1「ベガルタ仙台」や「モンテディオ山形」，そしてプロバスケットボールbjリーグなど，関心が高いスポーツを取り上げ，地元ファンの期待に応えます。高校野球をはじめとするアマチュアスポーツの魅力も積極的に伝え，スポーツの振興に寄与するとともに，地域を元気にする放送を目指します。

関東甲信越

≪基本方針≫

政治的な混迷，長期にわたる不況と雇用不安，急速な高齢化などさまざまな問題が，関東甲信越地方4,700万人の視聴者の暮らしに大きな影響を与えています。

時代が大きく変わる中で，首都圏放送センターをはじめとする本部各部局と関東甲信越の９つの放送局は，“頼りになる”そして“身近な”公共放送として，放送を通じて人々の安心や安全を守り，暮らしを豊かにするために全力をあげます。

私たちは，人々の生活に寄り添いながら地域や日本社会の抱える課題と正面から向き合い，出来事の現場や当事者への丁寧な取材で真実に迫る，徹底した“現場主義”

の報道に力を入れ，キャンペーン放送などを通じて解決策を探っていきます。特に災害や事件事故などの緊急報道や，選挙報道においてはいっそうの強化を図ります。

また，各地の豊かな自然や文化，人々の営みを見つめ，関東甲信越各地の魅力を全国に発信していきます。さらに，インターネットや携帯端末などを通じて，災害情報から暮らしに役立つ情報までさまざまな情報を迅速に提供し，視聴者への新たなサービスを飛躍的に向上させていきます。

それとともに，ニュースや番組と視聴者とを結ぶ双方向の展開をいっそう充実させ，視聴者の声を放送に反映してさらに役に立つ番組に発展させていくという新しい公共放送のあり方を摸索します。

こうした試みを通じて“いつでも，どこでも，もっと身近にNHK”の実現をさらに目指していきます。

加えて，７月のテレビ放送の“フルデジタル化”への円滑な移行に向けて，地域放送においても，それぞれの地域や受信者ごとの受信環境に応じた，きめ細かな情報の提供に努めます。

≪重点事項≫

１．暮らしの中の身近な課題に向きあう放送

人々の暮らしに寄り添いながら地域や日本の抱える課題と正面から向き合い，徹底した現場主義のニュース・番組を発信します。また地域や暮らしに大きな影響を与えかねない“埋もれた問題”や“見過ごされている危うさ”を掘り起こす調査報道も強化します。こうした身近な課題を関東甲信越の各放送局が連携し，例えば“ミドルエイジクライシス”のような統一テーマを掲げて“首都圏プロジェクト”としてキャンペーン放送を展開し，視聴者とともに解決策を考えていきます。

２．災害報道や選挙報道のいっそうの充実

国民の生命・財産を守る公共放送として，災害報道に引き続き力を入れます。さらに，気象情報や交通情報など暮らしへの影響についてもきめ細かく情報を伝えていきます。

また，人々の暮らしに直結する政治の動きについて，視聴者の関心に的確に応えるため，４月に予定される統一地方選挙などの選挙報道では，争点や地域への影響などをわかりやすく伝えるとともに，開票結果を正確かつ迅速に放送します。

３．地域の魅力・活力を全国に発信

関東甲信越各地には多様で豊かな自然や文化，暮らしがあります。

また，地域の活性化のためのさまざまな取り組みも行われています。こうした各地の魅力や活力を，NHKのネットワークを活用して全国に発信し地域を応援します。

４．感動，やすらぎ，そして地域を元気に

４月から，毎月１回金曜夜間の地域放送の時間帯に，関東甲信越地方向けに地域の課題を徹底的に掘り下げる一方で，紀行や自然，役に立つ生活情報などを盛り込んだ大型の特集番組を新設します。

さらに首都圏放送センターや本部各部局，関東甲信越の各放送局の番組などを通じて，地域ごとに独自性を発揮しながら，感動や親しみ，そして，やすらぎや潤いなど視聴者に活力や勇気を与え，視聴者や地域を元気にする番組を提供します。

５．多様なメディアを活用した新たな視聴者サービス

インターネットや携帯端末など3-Screensを通じて，災害や選挙などの情報や番組に関連する様々な情報を迅速に視聴者に提供し，放送以外でのサービスを飛躍的に向上させます。

また，ニュースや番組と視聴者を結ぶ双方向の展開をいっそう充実させ，視聴者の声を反映してさらに役に立つ番組に発展させていくという新しい公共放送のあり方や，地域や人々とのつながりを摸索します。暮らしや地域に役立つ情報を，放送と連動させながら，インターネット・携帯端末向けのサービスとして展開するなど，メディアの特性を生かしてこれまで以上に，“いつでも，どこでも，もっと身近にNHK”の実現をさらに目指していきます。

６．北関東２局のテレビ県域放送の実現へ向けて

12年４月を目途に開局を目指している前橋放送局と宇都宮放送局のテレビ　県域放送の実現へ向けて，地元の視聴者が放送に求めているものを把握し，それを踏まえて開局に必要な制度の整備や地元への説明など，関係各方面への働きかけを進めていきます。

７．テレビ放送のフルデジタル化への円滑な移行

都市部における，高層ビルなどの影響で生じた電波障害の解消のために建設された共同受信施設への対応の遅れなど，地域ごとの固有の課題について，地域放送番組やアナログ独自放送での告知などを通じてきめ細かく周知し，円滑な移行に万全を期します。

中　部

≪基本方針≫

中部地方の各放送局は，放送やインターネット，イベントなどを通して，地域に“信頼され”“役に立ち”“親しまれる”放送局を目指してきました。11年度は，これまでの蓄積の上に，人々が安心して心豊かに暮らせる社会を実現し，地域のジャーナリズム･文化の拠点となり，地域を“元気にする”取り組みを積極的に進めます。

不安定な政治情勢，長引く経済の停滞や少子高齢化は，中部地方の人々の暮らしに深刻な影響を与えています。こうした先行き不透明な時代だからこそ，地域の良さや豊かさ，そこに生きる人々の暮らしをじっくり見つめ，その魅力を発信して元気を届けます。また，地域の課題を掘り下げ検証するニュース・報道番組の充実，幅広い世代に共感されるドキュメンタリーやドラマなどを通して，視聴者の関心に応え地域活性化に貢献します。

７月には地上・衛星テレビ放送がフルデジタル化されます。円滑な移行に向けて必要な知識や情報を放送やインターネットを通じて提供するとともに，デジタル放送

のメリットを存分に生かしたコンテンツの制作や番組編成を積極的に行って，デジタル化の魅力を余すところなく伝えます。

また，放送に加えパソコンや携帯端末などを活用したサービスを充実させ，さまざまな年齢層の方とのつながりを一層強め，接触者率の向上を図ります。さらに“放送局のちから”を発揮して地域の人々に親しまれ信頼される放送局となり，地域での存在感を高めます。

全国的に地方自治のあり方に関心が高まる中，11年４月に予定される統一地方選挙にあたっては多面的で信頼される選挙報道に万全を期します。発生が懸念される「東海地震」「東南海地震」などの大規模災害への備えをはじめ，台風や豪雨などの自然災害から人々の生命・財産を守るべく，防災・減災報道に努め，公共放送の使命を果たします。

21世紀最初の10年を終え，11年は次の10年の一歩を踏み出す年です。中部地方の各放送局は，徹底的に地域にこだわり，地域を見つめ，地域の人々に希望や元気を届ける放送局を目指します。

≪重点事項≫

１．地域の課題と向き合い，人々に希望や元気を届けます

○長引く経済の落ち込みによる非正規労働者の雇用の問題や生産年齢人口の減少，福祉，環境などのさまざまな課題が地域の人々に不安を与えています。また，地域社会のつながりや家族のきずなが希薄になり，新たな社会問題となっています。こうした地域が抱えるさまざまな課題と向き合い，その解決の糸口を探るようなニュース・報道番組を充実させ，豊かで安心して暮らせる地域社会の実現と文化の創造につなげます。

○各放送局はこれまでも地域の人々に“信頼され”“役に立ち”“親しまれる”ことを目指して放送・イベント・キャンペーンを展開してきました。11年度はこれらの蓄積の上に，中部地方の豊かな自然や文化，そこに生きる人々の暮らしを見つめ，地域の良さや強み，魅力を掘り起こします。

○「この番組に感動し，元気をもらった，考えさせられた」と人々に共感してもらえるようなドキュメンタリーやドラマなどを制作します。また，金曜夜８時台の地域番組は内容のブラッシュアップを図り，より見やすい演出で視聴者の関心に応え，地域の人々に希望や元気を届けます。

２．地上・衛星のテレビ放送フルデジタル化に全力を挙げます

○７月にはアナログ放送が終了して，テレビ放送はフルデジタル時代を迎えます。放送をあまねく確実に届けることは公共放送の大切な責務です。ニュースや広報番組でフルデジタル化に必要な知識や情報をきめ細かく伝えるほか，これまで以上にデジタルの魅力を存分に発揮したコンテンツの制作やデジタル放送ならではの番組編成を積極的に行い，視聴者の円滑な移行を促し，支援し，フルデジタル化を推進します。

３．地域の人々とのつながりを深め，接触者率の向上に努めます

○“放送局のちから”をさらに発揮し，幅広い年齢層の方にNHKに接してもらう機会を作ります。現在親しんでいただいている方を大切にしながら，働き盛りの男性や主婦層など多様な世代にも受け入れられる上質な定時・特集番組などを制作して接触者率の向上を目指します。

○パソコンや携帯端末，データ放送など多様な回路を適切に活用し，地域に必要な情報を届けます。さらに，番組と連動した企画や独自のコンテンツを充実させ，より幅広い層とNHKとのつながりを強めます。

４．選挙報道に万全を期すとともに，地方自治と暮らしの関わりをわかりやすく伝えます

○２月，愛知県知事選挙，名古屋市長選挙，政令指定都市で初めて議会解散の賛否が問われた住民投票の，いわゆる“トリプル投票”が同日に行われ地方自治のあり方に注目が高まっています。そうした中，11年４月に予定される統一地方選挙にあたっては信頼される選挙報道に万全の態勢で臨みます。中部地方では三重県知事選挙（４月20日任期満了）福井県知事選挙（４月22日任期満了）などが予定されています。有権者の判断のよりどころとなる公平・公正で的確な報道に努め，地方自治のあり方や選挙の争点，私たちの暮らしや将来にどう関わるのかをわかりやすく伝えます。

５．緊急報道に全力を尽くし，防災・減災に役立つ情報も伝えます

○台風や豪雨災害，河川のはんらんや山岳事故などの自然災害や突発的な事件・事故の際は，迅速かつ正確な情報を伝え，地域の人々の安心・安全の確保に全力を尽くします。

○発生が懸念される東海地震，東南海地震など大規模災害に備えて，防災・減災に役立つ情報をインターネットやデータ放送など，多様な回路で提供し，地域の住民の命と暮らしを守る公共放送の使命を果たします。

６．地域に根ざしたスポーツの発展に貢献します

○プロ野球「中日ドラゴンズ」やサッカーJリーグ「名古屋グランパス」「清水エスパルス」「ジュビロ磐田」をはじめ，バスケットボールbjリーグ，プロ野球独立リーグ・BCリーグなどの地域に根ざしたプロスポーツを中継やニュースで詳しく伝えます。また，高校野球などのアマチュアスポーツも積極的に取り上げてスポーツの発展に貢献します。

近　畿

≪基本方針≫

11年度，関西のNHK６放送局は「平成21～23年度　NHK経営計画」に掲げられた経営２目標達成に向けて，放送と放送以外のメディア，イベントや広報活動等を通じて，総体として幅広い視聴者層に届けるサービスを展開していきます。

また，７月には地上テレビ放送，衛星放送のアナログ放送が終了して，テレビは“フルデジタル時代”を迎えます。関西の視聴者があまねくデジタル放送を受信できるよう，よりいっそうの周知・理解促進をはかります。そしてそのデジタル放送の特性をいかしながら，地域放送において視聴者が必要とする情報を的確なバランスで伝えます。

いま，“貧困”“子どもの虐待”“無縁社会”などの問題によって，わたしたち，そして子どもたちの健やかな“いのち”と“安全”が脅かされています。このような時代に関西のNHK６局は，暮らしの安心・安全を守る報道はもちろん，多様なコンテンツやキャンペーンなどを通じて，家族・地域のきずなを再確認し，心のよりどころとなるように“放送局のちから”を発揮していきます。

また，豊富な寺社仏閣をはじめとした歴史遺産や，風土が育んできた文楽・能・狂言などから落語・漫才まで上方芸能の魅力を伝える多彩な番組を制作し，地域に，そして全国に発信していきます。アーカイブス映像の蓄積など，関西の放送事業の足跡を後世に残す取り組みも継続して行います。

関西地方はこれまで，歴史的にもアジア各国と深く関わってきた経緯があります。11年度もアジア関連番組のよりいっそうの定着をはかるとともに，関西とアジアをつなぐ放送を目指します。また，スポーツファンを熱くさせる中継や特集番組，若い視聴者に向けた番組やイベント，放送外のメディアをいかしたサービスも，視聴者のニーズを把握しながら継続していきます。

関西のNHK６局は，それぞれが地域の課題に向き合い，フルデジタル時代にふさわしい，視聴者にとってきめ細かく満足度の高いニュースや番組を届けます。視聴者の期待に応え，地域との結び付きをいっそう強めることで，より身近に感じてもらえる地域サービスを追求していきます。

≪重点事項≫

１．接触者率80％達成に向けて　視聴者層の拡大

○「平成21～23年度　NHK経営計画」の最終年度にあたり，これまで２年間の取り組みの集大成として，放送と放送以外のメディアを通じて，接触者率のさらなる向上を目指します。

○番組ごとの役割を明確にし，いまNHKに多く接触している世代はもちろん，若い視聴者層とのつながりをより密接なものにして，「もっと触れてもらう」ための情報発信を続けます。

○金曜午後８時台の番組を中心に各府県の多彩な情報を届け，関西の視聴者のより高い満足を目指します。文化，紀行，スポーツ，ドキュメンタリー，ドラマなど幅広いラインナップの充実に努め，より多くの視聴者の獲得を追求します。

○４年目を迎える午後５時台の番組では，インターネットやイベント等を通じて10代・20代の若年層に，NHKへの関心を高めてもらうための取り組みを続けます。歴史に秘められた人間ドラマを描く全国向けの歴史番組では，従来の歴史ファン以外の興味もひくような，幅広い層に関心をもってもらえるテーマ設定でいっそうの定着をはかります。昨年度大きなチャレンジを行い話題を呼んだ全国向けの福祉番組は，取り組みの検証と視聴者との対話を積み重ねて，福祉番組の未来像を探り続けます。

２．地上テレビ放送のフルデジタル時代の幕あけ

○視聴者のニーズをつかみ，必要な情報をバランスよく的確に届けるため，フルデジタル時代における広域・県域の放送のあり方について調査・検証を続けます。

○フルデジタル化における近畿独自の課題を解決し，視聴者にあまねくスムーズに地上デジタル放送に移行してもらえるよう，放送を通じて理解促進をすすめます。「知らなかった」ということにならないようミニ番組・スポット等で積極的に周知します。

“７月24日”以降の地上デジタル放送未受信者への対応についても，放送の面からもサポートしていきます。

３．“放送局のちから”を高めて地域を元気に

○フルデジタル化で放送が新たな時代に入ったいま，地域に向けて放送局の力を発揮することがいっそう求められます。大阪放送局では地域貢献事業「子どもを守れ」キャンペーンを展開して，子どもたちを取り巻くさまざまな問題に正面から取り組み，地域における放送局の役割を果たします。

○関西地方を舞台とした，50・51作目の『大河ドラマ』や『連続テレビ小説』の関連編成・イベントを通じて，地域の活性化に貢献します。

○古典芸能から“お笑い”まで，関西が誇る新・旧の上方文化・芸能のほか，歴史と文化遺産の魅力を全国・地域に向けて発信します。

○５年目を迎える地域経済番組では，関西および周辺地域の企業がもつ独自の発想や活動を紹介し，地域経済の活性化を応援します。また，域内各局や西日本各放送局と連携を密にし，さまざまなコンテンツを活用しながら柔軟な編成で地域放送の魅力をより高める工夫を続けます。

○昨年立ち上げた“BKふるさとアーカイブス”を継続し，アーカイブス映像を活用した番組，貴重な映像資料の収集・蓄積など，関西の放送事業の足跡を後世に残す取り組みを続けていきます。

○11年，大阪放送局は新会館開館10周年を迎えます。地域に対して感謝の気持ちをこめて，イベント，関連施策を展開します。また，視聴者が直接番組に触れる貴重な機会の一つである，NHK大阪ホールを活用した公開番組の定着を目指します。

４．信頼にこたえる選挙報道

○４月に行われる統一地方選挙に続き，各地で行われる首長選挙にあたっては，政見・経歴放送や開票速報に万全を期し，公共放送として，公平で信頼される選挙報道を行います。

奈良県知事選挙（任期満了日　11年５月２日）
大阪市長選挙（任期満了日　11年12月18日）
大阪府知事選挙（任期満了日　12年２月５日）
京都市長選挙（任期満了日　12年２月24日）

５．地域の課題を鋭く見つめ，迅速・的確な報道で視聴者の暮らしを守る

○午後６時台の番組を中心に，地域ニュース・情報番組のさらなる強化をはかります。地域の課題に向き合い，視聴者の関心に応じて，関西地方向け，あるいは各府県向けに身近なニュースや暮らしに役立つ情報を伝えます。
○近い将来に発生が予測されている東南海・南海地震に備えるとともに，地震・台風などの災害報道や事件・事故発生時の緊急報道では，正確な情報を迅速に伝え，公共放送としての使命を果たします。
○今なお記憶に新しい兵庫県佐用町水害から２年がたちます。また10年の夏は，猛暑による熱中症で高齢者の方々が死亡するケースもみられました。ゲリラ豪雨や猛暑などの異常気象から暮らしを守る報道に努めます。データ放送やインターネットなども活用し，視聴者が必要とする情報をきめ細かく提供します。
○12年１月，かけがえのない多くの命を奪った阪神・淡路大震災から17年になります。記憶を風化させないためにも，復興に向けた取り組み，被災した子どもたちの今，そして人と人とのきずなの尊さをこれまで伝え続けてきました。これからも，震災の教訓や今までの歩みを通じて生まれてきた新たなつながりを，次の世代に伝える取り組みを続けていきます。

６．関西と“アジア”をつなぐコンテンツ発信

○２年目を迎えるアジア関連番組の定着をはかります。11年はKBS釜山と，翌12年にはSMG上海と協力関係を結んで25周年を迎えます。これまでに築いてきたネットワークをいかして，関西の魅力をアジアに，アジアの魅力を関西に伝える取り組みを続けます。

７．スポーツソフトの活用

○プロ野球やサッカーJリーグ，バスケットボールbjリーグなどの地元プロスポーツチームの試合や情報を，ファンの期待に応えて全国放送・地域放送で伝えていきます。また，高校野球や大学サッカー・ラグビー，アメリカンフットボールや駅伝などアマチュアスポーツを積極的に取り上げ，地域スポーツの振興に寄与します。
○地上テレビ放送のフルデジタル化にともない，スポーツ中継などでデジタル放送の特性を生かしたマルチ編成を積極的に活用し，新たなテレビの楽しみ方や地上デジタル放送の魅力を伝えていきます。
○地元の関心が高い，関西出身や関西で活躍するアスリートについて，ニュースや特集番組で積極的に取り上げ，関西のスポーツシーンを盛り上げます。

８．放送と他メディアの連携による視聴者サービスの充実

○10年度立ち上げた，インターネットでの若い視聴者向け番組のファンクラブを活用して，接触者を増やす取り組みを続けます。アンケートシステムで得た意見・感想を番組に反映し，放送とインターネットの相乗効果をはかります。
○高校野球や駅伝などのスポーツ中継では，データ放送・インターネットで，チーム情報や競技についての詳しい情報を提供し，内容の充実と使いやすさを追求し，デジタル時代にふさわしいサービスで利用者の満足度向上に努めます。
○NHKと市民および市民同士がつながる放送・通信連携の仕組みづくりを続けます。地震や災害で被害を受けた人々への継続的な情報提供などで，人や地域のきずなを支えます。
○双方向やデータ放送の新しいサービスの開発で，視聴者が“もっと身近に”NHKに接触できるように努めます。

中　国

≪基本方針≫

中国地方では少子高齢化が顕著に進み，長引く不況による先行きの不透明感をぬぐえずにいます。

このような不安定な時代だからこそ，中国地方のNHKは地域が抱える課題に正面から向き合い，地域に根ざした信頼される放送局を目指します。

中国５県の各放送局は，これまでも放送を通して，全国に先行して進む人口減少や高齢化の課題に取り組んできました。11年度は，人口減少社会と向き合い，地域を元気にするさまざまな番組を展開し，疲弊した地域に“あすへの指針”を示します。

また，豊かな自然や伝統文化を再発見し，ふるさとの魅力を地域や全国に発信していきます。さらに，高齢者層や若者世代など，ターゲットを明確にした番組を開発し，視聴者層のさらなる拡大を図ります。

土砂災害危険個所が集中している中国地方では，10年も大雨による土砂災害が相次ぎ大きな被害が発生しました。大規模災害に備えた防災・減災に役立つ情報の提供に努め，災害などの緊急報道では，迅速・的確に情報を伝えます。あわせて，データ放送や携帯端末など多様な手段を活用し情報を提供します。

また，11年４月に予定される統一地方選挙にあたっては，選挙放送の実施に万全を期します。

11年７月にテレビ放送はフルデジタル化します。デジタル放送への円滑な移行のための情報の周知に努めるとともに，デジタルメディアを効果的に活用した参加型の番組などを通して，視聴者との結びつきをいっそう強めます。

本格的なフルデジタル時代を迎えるにあたり，中国地方の各放送局は，こうした取り組みを通じて，身近な放送局として視聴者の期待に応えていきます。

≪重点事項≫

１．人口減少社会と向き合い，“あすへの指針”を示します

過疎化・少子高齢化は，農漁業の後継者不足や医療・福祉など生活の基盤となる分野でさまざまな問題を引き起こし，地域の経済活動にも暗い影を落としています。高齢者の孤立や児童虐待など家族や地域のあり方について考えさせられる問題も相次いでいます。人口減少社会が直面するこうした課題に正面から向き合い，視聴者や有識者と議論を交わしながら“あすへの指針”を示しま

す。

２．ふるさとの魅力を再発見し，地域を元気にします

さまざまな分野で活躍する人や地域活性化に向けた取り組みを紹介する番組，各地の暮らしや美しい自然などを訪ねる紀行番組を充実させ，地域の魅力を再発見します。また，中国地方にゆかりの深い12年の『大河ドラマ～平清盛』に関連した番組やイベントを積極的に展開し，地域を元気にします。

３．防災・減災情報を充実させます

中国地方では集中豪雨による土砂災害や浸水被害が相次ぎ，山陰地方では記録的な大雪による被害も発生しました。身近に起きた事例を教訓に，防災・減災情報を充実させます。また，災害などの緊急報道では，確かな情報をテレビ・ラジオでいちはやく提供するほか，インターネットや携帯端末でもきめ細かく伝えます。

４．正確，迅速な選挙報道で，視聴者の信頼に応えます

11年４月に予定される統一地方選挙では，有権者の判断のよりどころとなる情報を的確に伝えるとともに，正確で迅速な選挙報道に万全を期します。

５．放送と放送以外のメディアを連携させた多様なサービスを展開します

デジタルメディアを活用した参加型の番組や公開番組を通して，視聴者との結びつきを強めます。データ放送はトップ画面を刷新し利便性の向上を図るとともに，暮らしの安心・安全を支える情報や視聴者の関心が高いコンテンツに特化した編成で，より身近なメディアを目指します。

６．地域の文化・スポーツの振興に努めます

中国地方に受け継がれている個性豊かな伝統芸能や地域文化の発展・継承に努めます。また，サッカー，野球など地域に根ざしたスポーツを中継や番組で取り上げ，スポーツファンの期待に応えます。

四　　国

≪基本方針≫

四国のNHKは，四国を舞台にした全国ドラマが相次いで放送されるのを契機に，地域で生きる人たちや自然・文化の魅力を再発見する「ドラマチック！四国」キャンペーンを展開し，元気と感動を伝えてきました。11年度は，さらにその取り組みを発展させます。

その中心となるのが，“四国の底力”キャンペーンです。四国各地には個性豊かな文化や産業，自然など，さまざまな分野で，まだ知られていない地域の宝がたくさん残されています。その貴重な宝を掘り起こし，価値を見つめ直すことで，地域の活性化につなげます。金曜夜の四国向け地域番組では，愛媛・高知・徳島・香川の４県の代表がテーマごとにふるさとの自慢を持ち寄り競い合う73分の番組を新設します。また，関連番組のほか，ホームページでもキャンペーンを展開し，ふるさとの底力を視聴者のみなさんといっしょに再発見していきます。

公共放送の使命として，生活の安全・安心への関心に積極的に応えます。緊急報道や災害報道はもちろん，四国で急速に進む過疎と少子・高齢化，地域経済の低迷，農林水産業や地場産業の衰退，地域主権のあり方など，四国が直面するさまざまな課題を多角的に掘り下げ，わかりやすく伝えるほか，四国の将来を視聴者のみなさんといっしょに考えていきます。

そして11年度は，テレビ放送のフルデジタル化を迎え，放送にとって大きな節目の年になります。また，接触者率と受信料支払い率の向上を大きな目標に掲げた「平成21～23年度 NHK経営計画」の最終年度でもあります。地域放送番組においても，インターネットや携帯端末などの“3-Screens”を活用した双方向番組の充実を図るとともに，さまざまなメディアを通じて四国のみなさんの暮らしに役立つ情報をお届けします。

四国のNHKは，視聴者のみなさんに信頼され，親しまれる放送局として，地域との“きずな”をさらに深めていきます。

≪重点事項≫

１．“地域の底力”を発信する大型番組の新設

11年度は“地域の底力”を重点に放送を展開します。金曜夜の四国向け地域番組では73分の番組を新設します。四国４県の代表がそれぞれの地域の宝といえる“ふるさと自慢”を持ち寄り，楽しく競い合いながら，ふるさとの魅力を再発見します。また，関連番組をはじめ，ホームページでも自慢のふるさと情報を掲載し，四国全体を盛り上げていきます。四国の人や文化，自然のすばらしさを見つめ，ふるさとの誇りを伝える番組も，よりいっそう充実させます。

２．四国の“いま”を伝え，“これから”を考えるニュース・情報番組

長引く地域経済の低迷や，過疎・高齢化問題，そして高速道路無料化など四国が抱える課題は山積しています。また，TPP（環太平洋パートナーシップ協定）など四国の農業や産業の今後を問う課題も出ています。

金曜夜の報道番組では，四国各地で起きている問題に真正面から取り組み，四国の“いま”と“これから”を伝えます。また，地域の課題を議論する視聴者参加の双方向番組を刷新し，視聴者のみなさんのさまざまな意見や声をもとに，課題解決への糸口となる番組を積極的に放送していきます。

３．防災・減災に向けた緊急報道の強化

四国に配備した取材用ヘリコプターを活用して，事件・事故，災害など緊急報道の初動態勢と機動力を高めます。南海地震，台風をはじめ，被害が局地化する集中豪雨などの自然災害から四国のみなさんの生命・財産を守るため，きめ細やかで，正確な情報を伝えます。また，地域の防災力を高める番組や情報を提供することで四国に暮らす人々の安心と安全確保に努めます。

４．公正・公平で的確な選挙報道

11年４月に予定される統一地方選挙では，徳島県知事選挙をはじめ，首長選挙，議会議員選挙などがあります。秋には高知県知事選挙も予定されています。今後の地方行政を決める重要な選挙では有権者の判断のよりどころとなるように，公正・公平で的確な情報提供に努め，正確・迅速な選挙放送に万全を期します。

５．3-Screensコンテンツの充実

テレビやラジオだけでなく，インターネットや携帯端末など，“3-Screens”で暮らしに役立つ情報を提供します。ホームページでは，地域放送番組と連動したコンテンツを充実させるほか，データ放送では，情報の充実とともに使いやすさを追求し，欲しい情報がすぐわかるように改善をはかります。新しい技術を取り入れながら，それぞれの端末の特性を生かした魅力あるコンテンツをつくり，“いつでも，どこでも，もっと身近に”情報を得ることが出来るサービスの充実に努めます。

６．フルデジタルの魅力を生かした番組づくり

11年７月24日のフルデジタル化を控え，放送やホームページなど多様なメディアを活用して普及促進を図り，デジタル化への円滑な移行に取り組みます。また，視聴者参加の双方向番組や生活に役立つデータ放送の充実のほか，マルチ編成による複数番組の放送など，デジタル放送ならではの魅力ある地域番組の制作に挑戦していきます。

九　州

≪基本方針≫

九州新幹線鹿児島ルートが11年３月に全線開業します。新大阪からの直行運転で，沿線各地では，関西方面までエリアを広げた人の交流や地域経済の活性化につながってほしいと注目しています。さらには，アジアから九州への観光客の増加なども期待されています。

一方，解決への出口が見えない米軍普天間基地の移設問題や開門へ向けて動き始めた諫早湾干拓事業，地域社会に深刻な影響を及ぼした口てい疫からの復興，九州・沖縄に毎年のように被害をもたらす台風・豪雨に加え，長期化が予想される霧島連山・新燃岳の噴火活動等の自然災害への備えなど，九州・沖縄が直面する課題は山積しています。

九州・沖縄の９つの放送局は，視聴者の関心の高い問題に真摯に取り組み，身近で頼りにされる“地域を元気にする拠点”として，その役割を果たしていきます。九州・沖縄に共通するテーマや，各放送局が重点的に取り組む企画は，ネットワークを生かして広く発信します。

また，４月に予定される統一地方選挙をはじめとする各種選挙については，万全の態勢で臨み，正確で迅速，公平かつ公正な報道を行います。

さらに，７月のテレビのフルデジタル化に向けて，地域のすべての視聴者が円滑に移行できるよう万全を期すとともに，地上デジタル放送ならではの双方向性を生かした番組も拡充するなど，魅力あるサービスの充実に努めていきます。

≪重点事項≫

１．地域に密着した放送の充実

平日午後６時台のニュース番組では，九州・沖縄の各放送局のつながりを強化し，九州・沖縄各地のニュースや話題を積極的に取り上げます。暮らしに役立つ情報やアジア情報もさらに拡充して，内容の充実に努めます。

金曜午後８時台の番組は，内容を全面的に刷新します。九州・沖縄各地のさまざまな話題を，親しみやすく紹介し，見れば元気になる番組を目指します。このほか，金曜夜間では，九州・沖縄地方に共通する課題をタイムリーに取り上げ，正面から向き合う報道番組や，アジアで活躍する人物にスポットをあてたドキュメンタリー，喫緊の課題を取り上げる生放送の長時間討論番組など，多彩な番組を放送し，“地域を元気にする拠点”としての役割を果たしていきます。

２．“いのち”と“暮らし”を守る的確な情報の提供

九州・沖縄の９つの放送局は，ネットワークと機動力を生かして，迅速で的確な災害報道や緊急報道に取り組みます。

これまで各地に被害をもたらしてきた台風や豪雨，地震に加え，霧島連山･新燃岳の噴火活動などの自然災害，新型インフルエンザや口てい疫など人間や家畜に急速に広がる感染被害などから，地域住民の“いのち”と“暮らし”を守るための報道に取り組みます。また，災害時，緊急時にはインターネットのほか，データ放送やワンセグデータ放送でも情報を伝えます。

３．フルデジタル時代の魅力あるサービスの強化

11年７月のテレビ放送のフルデジタル化をうけて，視聴者とのつながりを深める双方向番組の拡充や，インターネット，携帯端末なども活用した番組の開発を推進します。フルデジタル時代にふさわしい，魅力あふれる新たな番組制作に積極的に取り組みます。

４．“戦争と平和”への取り組み

被爆地・長崎や住民を巻き込んだ地上戦の舞台となった沖縄をはじめ，九州・沖縄各県にはいまも戦争の深い傷が残っています。体験者の証言や記録資料などを通して戦争の実像に迫り，その悲惨さを後世に伝え，平和へのメッセージを発信していきます。

５．アジアに関する情報の発信

地理的・歴史的・文化的にもアジアと深いかかわりを持ってきた地域の放送局として，九州・沖縄の視点で捉えたアジア情報を，地域や全国に向けて積極的に発信していきます。中国や韓国をはじめとしたアジア諸国との経済や産業，文化交流などの動きを各国の放送機関との連携も生かして伝えていきます。

６．各種選挙への万全な対応

11年４月の統一地方選挙では，福岡，佐賀，大分の県知事選挙をはじめとして，10の市長選挙などが予定されています。

各種選挙については，有権者の判断のよりどころとなる，信頼できる確かな情報の提供に努めるとともに，正確で迅速な選挙報道に万全を期します。

７．地域の特徴を生かした多彩な全国発信

九州をはじめ西日本各地の美しい風景と，それぞれの地域の歴史や文化を紹介する紀行番組や，アジアの人々とのさまざまな交流を取り上げるラジオ番組，沖縄音楽とトークを楽しむラジオ番組など，地域の魅力を伝える番組を積極的に全国に発信します。

さらに，地域の課題をNHKが持つ全国のネットワークを生かした取材で発展させ，ニュースや情報番組を通じて全国に伝えます。

８．地域の文化・スポーツの振興

九州・沖縄の各地には，長い歴史と伝統の中で育まれてきた個性豊かな文化があります。それらを継承しようとする人々や，新しい文化・芸能を創造していこうとする人々を積極的に取り上げ，地域文化の振興，発展に寄与します。

また，スポーツが盛んな九州・沖縄において，関心の高いプロ野球やサッカーJリーグ，大相撲をはじめ，バスケットボール，高校野球，高校駅伝などの各種スポーツについても広く伝え，スポーツの振興に寄与します。

９．視聴者とともに作り上げる番組・イベント

デジタルメディアを活用した視聴者参加型の番組や，地域で頑張る若者を応援する番組など，視聴者とともに作り上げる番組をさらに発展，強化します。

市町村へ出向いて実施する公開番組をはじめ，会館のスタジオやホールを活用した番組，イベントなど，幅広く視聴者とふれあう地域イベントを積極的に実施して，地域に親しまれる放送局を目指します。